アロハ医学の胎動 No.32

東洋医学博士　亀井士門

ハワイ在住。ジュジュベクリニック院長
ハワイに集まる自然医学を統合させた統合自然医学（ホリスティック東洋医学）を研究。
現在、森下自然医学基本のハワイ医学／アロハ医学の立ちあげに努めている。

PCR検査の問題点

まず、ウイルスの存在を確かめる主流のPCR検査は大変感度が高いので、感染時はもちろん、事前に感染して治癒した後の極微量のウイルスやその他のウイルス、またその断片が体内に少量あるだけでも陽性となる問題があります。

PCR技術の開発者であり、ノーベル賞受賞者でもあるキャリー・マリス博士が生前訴えていたように、PCRテストはウイルスが崩壊した後の遺伝子の断片も複製してしまうためにこの問題があるのです。

現在ではPCR検査のCycle Threshold Value（Ct値）の設定を一番高い感度でテストすることで、多くの人々が陽性と診断されてしまっていることは、『New York Times』などのメディアでもようやく問題にし始め出しました。

感染とは、ウイルスが体内で増殖して一定にウイルス量が増えた状態や、症状（免疫反応）が出ている状態であることから陽性と感染には違いがあります。したがって、検査で陽性と出てもそれは感染とは限らないのです。

たとえばテストのCt値（テストの感度）を下げて低いところで陽性反応が出たならば、それはウイルス量が多いということなので、そのときはさらに感染度や発症の度合いを診察する必要があります。

最近、ようやく偽陽性（ぎようせい）という言葉が出てきましたが、なかでも、実際には未だに陽性反応が感染と一緒くたに見られてしまっている現状があるのです。CDC（米国疾病予防管理センター）によると、重症化する90％の人には高血圧、心臓疾患や肥満などの持病があり、また多くは高齢者の方々です。しかし、亡くなった人が陽性であればそれはコロナ死として見られ、世界中の病院施設でこれに基づいて死者の統計がとられているのが現状です。現在伝えられている数字は正確とは言い難いものなのです。

新型コロナは無症状でうつるか

新型コロナウイルスの特徴はたとえ感染していても症状が出ない無症状者が多いことが知られています。インフルエンザなどとの違いとして、本来は症状が進むと同時にウイルス量が増えるところ、新型コロナではウイルス量が多くなっても数日間（一般的には1日から1週間ほど、長くて2週間の間）して症状が出ることがあり、一方で無症状のままで終息することもあります。

PCRテストの問題として指摘されているウイルスのフラグメント（断片）を検出したような偽陽性の場合は、言うまでもなく感染する力はありませんので無症状で終わり、他者にも感染しないでしょう。また、多くの陽性者でウイルス量が少ない状態で無症状の場合はウイルス量自体が少ないので、ウイルスをうつす可能性も1％程度と言われています。

しかし時には、ウイルス量が多い感染状態でしばらく無症状であることもあり、この場合は人にうつす可能性が高くなります。このような場合、発症するのは30～50％と言われており、もし発症したとしても軽度の咳や熱で終わることがほとんどで、ウイルスの量が多くても終始無症状で終わることもあります。この感染度や症状の違いは、その本人の免疫力の差によるとされていますが、森下自然医学での見方では、血液の状態の差であるということはいうまでもありません。

森下自然医学による ウイルスの本質

実は現在の生物学では、ウイルスについて完全に解明されておらず、ウイルスが生物であるか無生物であるかについても未だに議論の決着がついていません。また、ウイルスがどのように細胞に侵入するのかについても、有力な定説こそありますが、常に新しい報告が出ているような状態です。あまりにも小さいウイルスを見る電子顕微鏡は静止画によるイメージしか映せないことから、シュミレーション（模擬）以外に動画としてのウイルスの動きを得ることはできないので、実際は誰もウイルスが細胞に入るところを直接確認した人はいないのが現状なのです。

わかっていることは、ウイルスは動物、昆虫、木や花の中、もちろん私たちの中にも、つまり、生物全体に潜んでいるということです。ウイルスは、むしろ自然の一部であり、いつも止めどなく変化していくのです。ここで大切な点は、ウイルスは外から飛来してきたとしても、結局は細胞の中から湧き出てくる事実です。森下敬一博士は、酸化した血液が悪質な体細胞になり、その体細胞が逆分化して分解しウイルスになることを突き止め、1960年代に国会でも証言しています。

森下博士は病原菌を病氣の結果である「病果菌」と呼び直しているように、ウイルスは細胞の病氣の副産物です。このことはウイルス自体が実際に宿主の細胞のタンパク質でできていることでも理解できると思います。つまり、ウイルスは自然伝達としての一部であり、私たちの一部でもあります。このような本質的な生命科学に基づくとウイルスは必要な生命の進化過程であり、大自然のメッセンジャー（伝達物質）なのです。

この観点から見ると、新型コロナウイルスも血液の悪質化による体の反応であり、症状は全て免疫反応であることから、質の悪い血液（酸性化）により症状が強くなる可能性が高くなるということです。このことは、高齢者、肥満体質、すでに病氣を患っている人、つまり血液の質の低下が根底にある人が重症化につながる事実を見ても明白です。

生命はメッセンジャーであるウイルスとともに進化してきたことを自らの念頭に置き、この自然の力の一部であるウイルスを正しく恐れて自分自身の免疫を上げることが大切です。

森下先生なら「血液を清潔に保つ正しい自然医食を心がけなさい」と言われるはずです。

加えて太陽をたくさん浴びて体内でビタミンDを造ることで抗菌ペプチドを養い、アーシングを行うこと、そしてストレスや恐怖心ではない健全な精神状態で自然体で生活することが大切です。

ワクチンで抗体を獲得しても感染を防げるか

ワクチンは医療が介入することでウイルスに対する抗体を獲得する目的で行われています。しかし免疫の一部である抗体が獲得できたとしても、それで血液が浄化されて免疫機能全体が促進するのではないことから、ワクチンで完全に発症を防げるわけではないと森下先生は仰るでしょう。それは75歳以上の高齢者へのインフルエンザワクチン接種が若い健康な人ほど効果を成さない理由の一つでもあります。たとえ免疫機能の一部分である抗体を獲得しても所詮、体を治癒するのは全体の免疫機能であるため、それ自体が弱い人は発病してしまいます。

ワクチンには弱めたウイルスやその断片が入っており、またそれを溶存するための数々の化学薬品でできています。その内容成分は体に危険なものを含み、現代では子どもたちの発達障害や現代人の病氣への関連性が懸念されています。

そしてワクチンをどれだけ精製したとしても、そこに含まれる不活性化したウイルスやその断片自体が、結局はウイルスを培養させる細胞のタンパク質そのものであることから、これらが血液に直接注射で入れられることでアレルギーを引き起こす懸念はいつまでも付いて回ります。血液の中にタンパク質を注射して血液を汚すことは、森下自然医学の観点から大きく逸れることはいうまでもありません。

ワクチンの危険を呼びかける運動や、ワクチンの国民強制接種の動きに対しても抗議が続いている現時点（9月末）の統計では、今回の新型コロナワクチンについてはアメリカの3分の1以上の国民が接種を拒否しています。

森下自然医学を根底に 前進するべき時代

現在ワクチンによる獲得免疫ばかりが脚光を浴びていますが、私たちの体を守ってくれている免疫機能には自然免疫（先天性免疫）があり、これは昔から私たちを守ってくれています。もちろんこの自然免疫の機能として抗体を造る機能もあり、体がウイルスを覚えて抗体を造り獲得免疫としてウイルスを調和することができます。

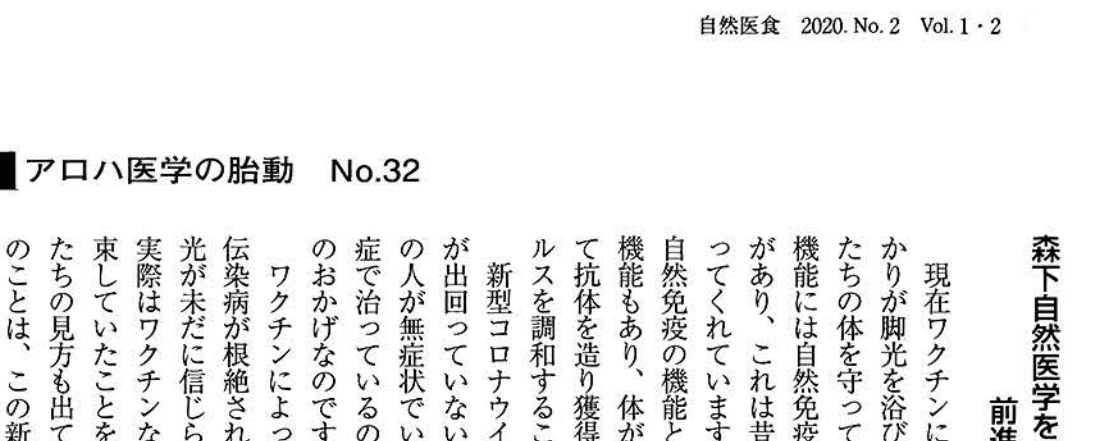
新型コロナウイルスのワクチンが出回っていない現状でも、多くの人が無症状でいたり、または軽症で治っているのはこの自然免疫のおかげなのです。

ワクチンによって過去の多くの伝染病が根絶されてきたとする栄光が未だに信じられていますが、実際はワクチンなしでも全ては収束していたことを指摘する専門家たちの見方も出ています。これらのことは、この新型コロナもすでにモンテネグロ、スエーデンや台湾等の国によっては徐々に終結の雰囲氣が見え始めている事実を見ても理解できることだと思います。

これからの世界情勢は利益追求主義の企業とそれに準ずる国策によって激動の社会に突入する懸念があります。見えない敵ウイルスによる攻撃に打ち勝つとする西洋的な思想によって正義感を沸き立たせるべく用意された舞台は人々の無知があってこそ成り立つシナリオです。

そしてその路線には医療による安全対策を大義名分にして個人を追跡管理しプライバシーを侵害する電子アプリをはじめ、全国民にワクチン接種を義務づけるという異常な事態もが半ば当然のように模索されています。

過剰な医療によって人の尊厳が失われつつあるこのような時代こそ、まず日本が元々の自分たちの東洋思想に回帰し、森下敬一先生なら何と言われるかをイメージして、森下血液生理学による本質を持って物事の真相を見抜き、健康のために自分の血液を浄化することを行い、そして広く勧めていくことが大切です。

世界もこの本質を理解できれば、究極の選択を強いられるような問題はそもそも存在しないことにも氣付くはずです。

本質に基づいた観点から、今回の世界劇場型コロナ騒動を見直し、本当にこの社会を止めてしまったものは一体なんであるのかを考え、本当の意味での健康、民主主義、そして人間の尊厳を全うできる社会を考える森下自然医学の皆様と一緒にアロハ医学は前進して行きます。